

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                   |            |  |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号   | 1020700645        |            |  |
| 法人名     | 有限会社グループホームなごみ(和) |            |  |
| 事業所名    | グループホームなごみ        |            |  |
| 所在地     | 群馬県高崎市上豊岡町902-3   |            |  |
| 自己評価作成日 | 平成25年6月3日         | 評価結果市町村受理日 |  |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a> |
|----------|---|

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                             |  |  |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | サービス評価センターはあとらんど            |  |  |
| 所在地   | 群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階 |  |  |
| 訪問調査日 | 平成25年7月5日                   |  |  |

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的雰囲気の中でゆったりした時間を過ごせるような環境作りに努めている(例)屋外に自由に散歩するスペースがある。・転倒時に障害を軽減する為に全フロアー、居室にはクッション入りの床が張られている。・個別制を重視し、ドライブや買い物、医療機関への受診、近隣の催し物に参加する等のサービスを行っている。・非常勤に正看護師がいる。・家族から要望があればターミナルケアも行っている。・アニマルセラピーで、屋内には、熱帯魚や犬(室内犬)、屋外にはカメラ、ニワトリ等がいる。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に掲げている「笑顔と安心の生活」が利用者と職員の日常生活の中から感じられる。居室から外に出ると、自然があり、水の音が聞こえ、利用者が精神的に開放される環境も整えられている。職員を研修等で育て、利用者に笑顔になってもらいたいと望み、笑顔の接遇で利用者に安心感を与えようと努力している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)    | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、生き生きと働いている<br>(参考項目:11,12)                                      | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |   |

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価                              | 外部評価   |                   |
|--------------------|-----|---|-----------------------------------|--|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況                              | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |                                   |  |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている  | 自ホームの運営理念を掲示し毎朝申し送りの時、合唱している      | 新しい職員には入職時に教育をしている。新人・現任者ともに事業所独自の理念に沿ったカラーを教えている。日常的には職員同士がお互いに確認・教えあっている。                  |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している  |                                   | 運営者の住まいがあるため、昔から地域の方々と顔見知りであり、地域の行事に参加したり、交流を行ってきた。去年は隣組の班長になって協力している。地域から事業所には敬老会のお誘いが来ている。 |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている  |                                   | /  | /                 |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                     |                                   | 定期的開催され、家族・区長・市の担当者・職員が出席して行事やその時期のトピックスを報告し意見交換がされている。地域の方々に参加しやすい日程を組んでいるがまだ参加はない。         |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる  |                                   | 介護保険代行申請をしている。日頃の報告等は直接届けに行っている。介護相談員の訪問やオレンジボランティアを受け入れている。                                 |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠と身体拘束はしていない。事業所を囲む門には鍵をしている。 | 利用者の中で徘徊している人がおり、玄関は開錠しているが、事業所と庭の先の門は閉まっている。スピーチロックに関してはその都度注意している。                         |                   |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている        |   |   |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    |   |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約等の変更がある場合は、事前に郵送、又は運営推進会議にて説明し、文章にて同意を得る様にしている。 |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     |   | 家族の要望や意見を表出できるように運営推進会議の返信欄に意見を記入する欄を設けている。本人の希望はリーダーや職員が聞いている。担当制を敷かず全職員が意見を聞くようにしている。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 毎月第4水曜日に全体会議を設けている                                | 全体会議の場で職員から意見が出ている。勤務時間の変更や急な休みの取得等、都合をつけ合っているが、その都度試行錯誤の状況でもある。                        |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 毎月第4水曜日に全体会議を設けている                                |   |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 出来るだけ、研修に参加するように、スケジュールを立てている                     |   |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 近隣のグループホームに見学に行ったり、交換研修を行っている。                    |   |                   |

| 自己                          | 外部  | 項目   | 自己評価                             | 外部評価   |                   |
|-----------------------------|-----|--|----------------------------------|--|-------------------|
|                             |     |  | 実践状況                             | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |                                  |  |                   |
| 15                          |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている |                                  |  |                   |
| 16                          |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            |                                  |  |                   |
| 17                          |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        |                                  |  |                   |
| 18                          |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 一人ひとりの残存能力を活かし支え合う日々の生活に取り組んでいる。 |  |                   |
| 19                          |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         |                                  |  |                   |
| 20                          | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 面会、外出はいつでも可能にしている                | 毎日面会に来ている人がいる。本人から希望が出ると家族と相談して買い物や外食等に出かけている。今は個別の趣味を続けている人はいないが、体操や歌は好きなので続けている。 |                   |
| 21                          |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 食事の時、テーブルに座る位置を会話が弾むように配慮している    |  |                   |
| 22                          |     | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている  | 入院時の時は、家族の負担を考え、洗濯等の回収に代行を行っている。 |  |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |   |
|------------------------------------|------|--|--|--|---|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容                                       |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |  |   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   |  | 本人の希望は職員やケアマネジャーが日常的に聞いている。家族からは面会時や文書で意見や意向の確認をしている。出された意見はサービス担当者会議で情報を共有し、家族の了承は面会時や郵送で頂いている。 |   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       |  |  |   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   |  |  |   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 面会に来られた方に、昔の状況、思い出等を話して頂き介護計画の作成に反映している        | モニタリングはプラン変更時に行っている。介護計画は3ヶ月と半年と随時に見直しを行っている。  | 月に1度のモニタリングを行い介護計画を季節の変わり目毎の3カ月に1度程度行い、現状に即した作成に繋げてほしい。 |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日々の状態、様子をノートに記録しいつでも閲覧出来る様にしている                |  |   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               |  |  |   |
| 29                                 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                         |  |  |   |
| 30                                 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                     | 入所時に今までのかかりつけ医か、当事業所のかかりつけ医かどちらでも選択できる体制をとっている | かかりつけ医を継続するか協力医に変更するかどうかは入居時に説明して選択できる。週に1度の口腔ケア訪問歯科受診がある。他科の受診支援は家族が出来ない場合は職員が支援している。           |   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                           |
|----|------|---|--|---|---------------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容         |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 介護職と看護職の連絡ノートを使い、介護職は利用者の変化があればノートに記載し、他のスタッフも情報が得られる様になっている |   |                           |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 現在の状況で、病院側が認知症の方の受入れが困難で、なかなか                                |   |                           |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  |  | 『重度化した場合における対応に係る指針』があり、看取りの事例と現在希望している利用者もいる。終末期に向けた職員教育を行う予定である。協力医の協力体制と緊急時の連絡体制がある。 |                           |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 定期的に、普通救命講習を受講している。  |   |                           |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  |  | 消防署立ち合いを含めた定期的な訓練は行っているが、事業所独自の自主訓練は回数を重ねていない。備蓄の用意はある。スプリンクラーは設置済である。                  | 定期的な自主訓練を重ねて不測の事態に備えてほしい。 |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |   |
|----------------------------------|------|--|--|---|---|
|                                  |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容                             |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |  |   |   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   |  | 利用者各人との係わりを大切にしたいと考えている。利用者同志のトラブルに対しては職員が仲裁等で中に入ることもある。利用者と職員との信頼からくる相談事を職員全体で情報として共有することについて、個人のプライバシーや尊厳が守れるのかどうか思案中である。 |   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     |  |   |   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している |  |   |   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  |  |   |   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 利用者の食事介助が必要で、見守りが必要不可欠な為、利用者と職員と一緒に食事を採る事は行っていない。準備や後片づけは行って頂いている。 | 見守りと職員の休憩時間確保等で一緒に食べていない。検食者もない。調理時に味見をしている。外食の機会は事業所で出かける場合と家族と出かけている人もいる。   | 利用者と職員が同じものを食べる検食者をおき、味の評価をするところから始めてみてはいかがか。 |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 栄養の管理は、定期的に血液検査を行い不足している鉄分、カルシウム等が不足していないか必要に応じて支援している             |   |   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 毎食後には口腔ケアを行い、週1回の訪問歯科で口腔状態を確認して頂いている                               |   |   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |   |
|----|------|---|--|--|---|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容                               |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 尿意、便意が無い利用者でも、日中はトイレにて排泄できる様に排泄パターンを観察している。居室での夜間ポータブルトイレを利用する方は、日中は居室に置かない様になっている | 日中はトイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレ、オムツなどその人に合わせ、安眠を優先している。ポータブルは昼間は部屋に置かない。汚れた時はシャワーや清拭等で清潔保持を心掛けている。         |   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 排便の確認は毎日行い、便秘にならない様に錠剤や下剤をしようしている  |  |   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 入浴可能日(月火木金)は決まっているが、希望があればいつでも入浴できる様になっている。又利用者本人から入浴の希望は殆ど無い。                     | 決められた入浴可能日以外の水曜日と土曜日は希望すれば入れる。最低でも週に2回は入っている。入浴の好きな人と嫌いな人が入ってしまうえば喜んでもらえる。夏はシャワーのみである。皆で温泉に行きたいが状況的に難しい。 | 夏でも湯船に入りたい利用者がある場合も考慮して、お湯をはり入浴時に選択してもらってはいかがか。 |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   |  |  |   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 投薬の管理と服薬の確認は必ず行っている  |  |   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 季節毎に行事を設け、日々の天候によりその日に外出したり楽しみごとを盛り込んでいる。  |  |   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している |  | 日常的には庭の東屋でお茶を飲んで外気にあたる機会がある。個人的に家族と外出している。季節の花見等でドライブに出かけ、お弁当を楽しんだり、外食したりと外に出る機会を設けている。                  |   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価                                       | 外部評価   |                   |
|----|------|--|--|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況                                       | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 本人が買物に行きたい時に、一緒に行ったり、職員が帰宅するついでに買物をしてくる等   |  |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   |  |  |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 実際に当ホームに見学して観て下さい。                         | 2つのユニットが向い合せに設計してある。各キッチンから2～3つに分けられた丸テーブルの利用者が良く見える。壁には鏡が所どころ設置されている。利用者の目標が掲げられている。嫌な臭いはしない。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 話が合うように、座る位置を変更したり、その時々様子で変えられる様にしている。     |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 以前住み慣れた環境に近い様に、飾る物、時計、テレビ、茶筆筒等を持って来て頂いている。 | 各部屋は掃出し窓となっており、どの部屋からも外の景色が見渡せる。テレビや椅子、クッションや日頃の作品が飾られている。利用者の個性が大事にされている。                     |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   |  |  |                   |